

2018 年度 立命館附属校・提携校 道德教育研修会

附属校教育研究・研修センター

3月18日(月)朱雀キャンパスにおいて、附属校・提携校 道德教育研修を実施した。講師には、文部科学省中央教育審議会道德教育専門部会委員、同省「道德教育に係る評価の在り方に関する専門家会議」委員を務められる畿央大学教育学部・同大学院教授 島 恒生先生をお迎えした。

研修では、小・中学校で教科化された「特別の教科 道德」についての理解を深めることを目的に『道德教育と「特別の教科 道德」の進め方と指導の工夫』をテーマにご講演いただいた。講演後は質疑等の意見交換を行った。参加者は7名(立命館中高1名、立命館慶祥中高2名、同中高RU教職大学院1名、初芝富田林中高1名、初芝橋本中高1名、平安女学院中高1名)であった。

《研修内容》

島先生からは道德が教科化されたことでこれまでと何が違うのかをお話いただきながら、授業での実践例も交えて研修を進めていただいた。

まず、道德そのものが変わるというわけではなく、子どもたちが学び、考える上で、本来あるべき姿が変わるのだという基本的なお話があった。それは「伝える授業ではなく、子ども達に考えさせる、教師がしゃべり過ぎない授業」がこの道德教育が目指す本質であることを強調された。子ども達自ら考え、みんなで話し合うことが大事なことであり、伝達型の授業からの脱却が重要なポイントであることをお話いただいた。この観点を踏まえた授業実践では、次第に子ども達に顕著な意識の変化が現れ、自主的に授業に取り組む姿勢が見られたとのことである。また、こうした成果が、他教科にも影響を与え、授業が劇的に変わるということが報告された。

この他「道德科」の実践に向けての課題について幾つかポイントになる点を示していただいた。一つは、小学校の低・中・高学年、中学で、それぞれの発達の段階に応じた深い学びのねらいを設定する重要性であった。これに関して、実際に教材2編をもとに、子ども達が考える

上で、幾つか提起された発問例から、より適切な選択肢を選ぶ研修を行った。ここでは詳細は省くが、受講者の回答が3つに分かれるなど考え方に相違が出る場合があった。大切なことは、子ども達がいかに自分のこととして考え、他者の意見にも目を向け、多様な視点を持ち価値観を広げるかであり、そのための問いかけの工夫が求められているということであった。また、教材を読み物として理解する国語的授業や特活等のように体験のみが中心となる授業とならないようにすることの指摘もいただいた。

平成30年度
立命館 教育研究・研修センター研修会

道德教育と「特別の教科 道德」の 進め方と指導の工夫

畿央大学 島 恒生

はじめに

今、何が求められているか

道德科の授業づくり

子どもが考え活躍する授業づくり。子どもに「えっ」と思わせる問いと、みんなで考え合い、納得と発見のある授業をつくる。

教育活動全体で行う道德教育

道德科での指導と教育活動全体で行う指導がつながり、補い合いながら深まりや広がりがもてるようにする。

チームとして取り組む体制づくりと実行

教職員がチームとなり、授業改善や道德教育の推進に向かって一枚岩となる。中学校区の授業づくりネットワーク。

講演最後には道徳の評価に関するお話をいただいた。教科と道徳科の基本的な違いは、道徳科は到達目標ではなく方向目標であり、学習状況の評価として通知表の記載例なども挙げながら評価上の留意点を示していただいた。

質問、意見交換では、受験と関わり、道徳の授業が学力向上に寄与している側面や、教材は教科書がベースであるが、現場でより深めたいテーマについて独自教材に、あくまで一部を入れ替えるなどは可能であること、発問に捉われず、実際に授業で出てきたものを自由に活かしての実施では、深い学びに繋がらない恐れがあることなどお話いただいた。また、ローテーション授業の実施やそれについての留意点などもご助言いただくなど、今後の授業実施において大変参考になった。

道徳の教科化自体については議論になった部分もあるが、今回の講演を通じて、目指している「考え、議論する道徳」、主体的に考え、他者の考えも聞き、議論するという視点が、これからの道徳の授業において不可欠であることが共有できたと思う。一方で、教師のチーム力、個々の力量向上の必要性も改めて知ることとなった。そしてこの踏み出した新たな道徳教育の方向性が、工夫次第ではキャリア教育とも結ばれ、子ども達の未来へと繋がる期待を抱かせることにも思い至った研修会であった。

(記録：一貫教育課 工藤祐一、編集：教育研究・研修センター 羽田澄)

意識的にプラス志向で！

道徳科の時間は、「ないもの」を子どもたちに教えるのではない。
子どもたちの心の中に育ってきている「あるもの」に気付かせる！

開発・リソース(資源)の考え方

○ あると信じる ○ 普段から育てる

「学習者は子ども」という考え方を

主体的・対話的で深い学びの授業

「考え、議論する道徳」!

⇒ 教師がしゃべり過ぎない授業！
しかも、学びのある授業！

保育に学ぶ

道徳科の評価は？

- 「evaluation」の評価
..... 値踏み 指導あつての評価
- 「assessment」の評価
..... 診断 ワクワクしながらよさを見つける
- 「appreciation」の評価
..... 真価を認めて励ます 成績ではない 幼稚園の先生がしている評価

「道徳科の評価」のために

- ワークシートを残す
- 座席表等に記録を残す
- 板書をデジカメ等で残す
- 授業後や学期末等に、児童・生徒に学びをふり返らせる
- 職員研修で、具体的な評価について研修する